

ラムサール条約登録湿地を増やす 議員の会

「ラムサール条約COP10報告会」 COP10の成果と今後の取り組みに ついて

平成20年12月12日
環境省自然環境局野生生物課
星野一昭

締約国会議 (COP)

- 条約の実施状況を検討する場
- 3年を超えない間隔で招集
- COP1 1980年 イタリア(カリアリ)
↓
COP5 1993年 日本(釧路)
↓
COP10 2008年 韓国
(昌原(チャンウォン))



COPで何が行われる？

- 湿地の保全、管理、賢明な利用について勧告または決議を採択。
- 締約国は、決議の履行に関して責任を負う。
- COP10のテーマは「Healthy Wetlands, Healthy People」であり、人間の健康な生活に欠かせない湿地の機能の保全に焦点が当てられた。

清水顧問と韓国国会環境労働 委員長との対談

開会式前に、清水嘉与子顧問と、韓国国会環境労働委員長の秋美愛(チュ・ミエ)議員が会談

- 「ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会」の活動紹介
- 両国の湿地の保全・登録状況の紹介
- 環境保全に係る日中韓の協力



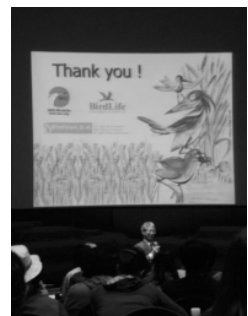
展示ブース

- 環境省が設置したブースにおいて、自然再生、新規登録湿地、ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会、CBD-COP10等のポスターを展示。
- 関係市町村連絡会議のブースにおいて、既存のラムサール条約湿地のポスターを展示。
- 多くの日本のNGOもブースを設置。



NGOの活動

- ブース設置の他、各種サイドイベントをNGOが主催した。
- WWFジャパンが主催のサイドイベントにおいて、稲見秘書が「ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会」の活動の紹介を行った。



開会式とレセプション

- 李明博(イ・ミョンバク)大統領、環境大臣、ラムサール事務局長、IUCN事務局長、CBD事務局職員、UNEP事務局長等より開会の挨拶が行われ、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長によるビデオメッセージも流された。
- これまでのCOP開催国から、子どもの代表が湿地保全へのメッセージを読み上げた(釧路の高校生も参加)。



- 本会議では、32本の決議を採択

• 主な決議

- 戦略計画(2009-2014年)
- 財政・予算事項
- 高病原性鳥インフルエンザへの対応ガイダンス
- 渡り鳥のフライウェイ(渡り経路)保全のための国際協力の促進
- 湿地と人間の健康
- 湿地システムとしての水田における生物多様性の向上
- 昌原(チャンウォン)宣言

決議案31.「水田決議」(日韓共同提案)

水田が水鳥をはじめとした様々な生物の生息地として重要であることを認識し、生物相の調査を進め、情報交換を行うこと、また、生物多様性を高めるような農法や水管理方法を特定し、実践することを締約国に呼びかけるもの。



水田決議を今後どう生かすか

- 関係省庁、自治体、NGO等様々な主体の協力
- 「田んぼの生きもの調査」の実施
- 里地里山の保全・再生
(冬期湛水田等の技術を活かす)



生物多様性の向上

2010年の生物多様性条約COP10に向けた「SATOYAMA イニシアティブ」への理解促進

ラムサール条約湿地の新規登録

- 化女沼(けじょぬま):
宮城県大崎市(ガンカモ類の飛来地)
 - 大山上池・下池(おおやまかみいけ・しもいけ):
山形県鶴岡市(ガンカモ類・ハクチョウの飛来地)
 - 瓢湖(ひょうこ):
新潟県阿賀野市(ハクチョウの飛来地)
 - 久米島(くめじま)の溪流・湿地:
沖縄県久米島町(キクザトサワヘビの生息地)
- その他、琵琶湖の登録区域が拡大された(近江八幡市、安土町)。

登録認定証授与式

- サイドイベントとして、日本の新規ラムサール条約湿地に対する認定証授与式を開催



ラムサール条約事務局次長より、大崎市長、鶴岡市議会議員、阿賀野市長、久米島町長、近江八幡市副市長、安土町長、滋賀県自然環境保全課長に対し、授与された。

